ピンクリボン

私と乳がん

どんなことも 笑い飛ばして

裏紙に書いた50項目の願い

広島市佐伯区　丸山深雪さん（55）

夫との出会い

「あんたには、一緒に生きていく人が必要じゃけぇ、希望を書き出しんちゃい」。先輩からそう言われたのは、乳がんの手術を終え、離婚してすぐのことでした。つまり、どん底の時だったんです。

正直、結婚なんて、もうこりごり。「一人で生きていきます」と言い返しても、女性部の先輩は「祈りんちゃい」と引かなくて。

仕事の休憩時間、手元の裏紙にぽつぽつ書き始めました。〈うそをつかない人〉〈真面目に働く人〉〈私の学会活動を優先させてくれる人〉……気付けば、50項目になっとった。でも、私は妊娠が難しい体。再発の可能性も高い。結婚してくれる人なんおらんじゃろ。メモの束を御祈念帳に挟んで、見んようにしとった。

それから4年。「結婚したいです」。真っすぐ目を見て言ってくれたその人は、48項目も当てはまっとった。あとの2項目はパチンコとタバコ。まあ、ええじゃろうと思いました。

胸のしこりが気になり、地元病院の婦人科で診てもらうと、すぐに市民病院への紹介状を渡された。マンモグラフィーなどの検査を受け、2004年（平成16年）10月、丸山深雪さん＝支部女性部長＝は乳がんと診断された。35歳の時だった。

「当時は、信心があさっての方を向いとりました」。題目をたくさん唱える母を横目に、社会人になると学会活動を避け続けた。夫が借金をしても、祈ろうとはしなかった。「しょーもないプライドが邪魔して、誰にも相談できんくて」。乳がんと診断され、医師から転移の可能性を告げられたのは、そんな頃だった。

同志が励ますけってくれた。思わず、丸山さんは漏らした。「こんな私でも幸せになれるんでしょうか」

先輩は優しかった。「絶対に大丈夫。みんながあなたを待っとるけえ。これからが恩返しできるチャンスなんよ」。丸山さんは御本尊に向かった。

がんは4センチまで肥大しており、右乳房の4分の3を切除。広範囲に転移が見られたリンパ節も取った。病理検査の結果、「がんの顔つきが悪く」、3年以内に再発した場合は「覚悟が必要」と医師は告げた。抗がん剤治療は過酷で、髪はごっそり抜け落ち、吐き気が止まらない。「朝なんか来なければいいのに」とさえ思うことも。そんな時、池田先生の言葉と出あった。

「堂々と　生き抜け　勝ち行け　病魔をも　笑い飛ばして　長寿の　王女と」

以来、苦しくなるたびに「笑い飛ばせ！」と口に出すことが丸山さんの習慣になった。「ちっちゃな声で、泣きながらですけど。でも、池田先生が言っとるんだからって、命に刻むように言い続けました」

半年間の抗がん剤、1カ月間の放射線治療を終えた丸山さん。「でも今度は、母親になれんってことで、また悩むんです」

術後すぐに夫と離婚した。街で目にする母子の姿に胸が締め付けられる。事情を知らない近所の人が「お子さんは、そろそろ産まんと」なんて、さらっと言ってくることも。それが一番きつかった。悪気はないと分かっていても、「周りと比べては、どうせ私なんかって家で泣きました」。

そんな時、ひょっこり現れたのが、隆さん（64）＝副本部長＝だった。会合で顔を合わせても印象に残らなかったような人。結婚を何度も申し込まれた。「断りましたよ。一人で生きていくと決めていたし、そもそもタイプじゃなかった（笑）」

ただ、時間を共にするうちに、心が軽くなっていった。丸山さんが、いびつな乳房を恥じ、好きだった大浴場に行くことをためらっていると、「深雪ちゃんが頑張った証拠じゃから、堂々としとればいいんよ」と言ってくれた。子どもが望めないだろうことも、「そもそも子どもへの接し方が分からん」と気にするそぶりもなかった。09年に再婚した。「御本尊様の計らいとしか思えません」

ある時、丸山さんが人と比べて落ち込んでいると、隆さんは居間にあるテーブルの上で御書を開いた。

「煩悩の薪を焼いて、菩提の慧火現前するなり」（新987・全710）

「悩みが力になるんじゃけえ」。多くは語らない。短い言葉で何度も進む道を照らしてくれた。一方の隆さんは、「深雪ちゃんは離よりも明るい。病も、二人なら乗り越えられると確信していました」ときっぱり。互いに尊敬し合う広布のパートナーとなった。

こんな私でも幸せになれるの？「大丈夫。これからが恩返しできるチャンスなんよ」

夫の隆さん㊐が「深雪ちゃんは、気付いたら10歩先を歩いとる」と笑えば、「信心は付いていっとるじゃんね」と丸山さん。二人は支え合って進み続ける

二人で歩み、5年間のホルモン療法を終えた。その後も、感染症の蜂窩織炎を患うなど、毎月のように微熱が続いた。そのたびに押し寄せる再発の不安。吹き飛ばしてくれたのは、池田先生だった。

「私と同じ心で立ち上がってもらいたい」「断じて負けるな！」「愉快に進もう！」

本部幹部会の中継行事で聞く師の声は、どんな状況でも変わらず力強かった。「くよくよするのは、弟子じゃないじゃんねえ」

何度も口にしてきた言葉。「笑い飛ばせ！」。少しずつ、声が大きくなっていった。次第に、本当に笑顔で言えている自分に気が付いた。「病気になったら負けとか、そんな信心じゃないですもんね」

中には、夫との関係や病気で悩み、自分を卑下する人もいる。丸山さんは、嘆いてばかりだった過去の自分と重なるという。「絶対に大丈夫よ！　結局は、幸せになれる信心じゃけえ」。自然と言える自分が不思議で、誇らしい。乳がんになって20年。新しい人生を得た喜びを感じる。「だから、ちょっとだけ病気に感謝しとるんよ」

今でも、弱気が顔を出すこともある。子育てに奮闘する部員の話を聞いた帰り道、「私は母じゃないから」と思ってしまう。女性部の先輩が背中をたたいてくれた。

「支部のみんなを、子どもと思ったらええ」

「でも、ほとんど年上じゃん」

「そんなん、言っちゃあ、いけん！」

先輩が笑い、丸山さんがもっと大きな声で笑う。心優しい夫と二人三脚で、今を謳歌する笑顔がまぶしい。確信の人には何事も笑い飛ばす強さがある。

ちなみに、隆さんはパチンコとタバコをやめ、50項目の願いは全て達成された。（10月30日付）

▲「信仰体験　私と乳がん」の連載まとめはこちらから

千代紙が生み出す魅惑の世界

日本の伝統的な装飾紙で、特に折り紙や民芸品などに使われている千代紙。その魅力は色鮮やかなデザインや細かな文様にあります。
千代紙の文様は、花や自然の風景、季節の風物など、日本人の美意識をモチーフに作られてきました。
箸置きや箸袋、ポチ袋など、生活用品としても利用できる千代紙。折り方さえ覚えれば、自分だけのオリジナルも制作することが可能です。折ったり、切ったり、貼ったり、ちぎったり、「紙」は用途によってさまざまな姿に形を変えることができます。
私たちは今後もみなさまの期待に応えられる高品質で使いやすい製品をご提案してまいります。

一年のご愛顧、誠にありがとうございました。

王子製紙株式会社
日本製紙株式会社
大王製紙株式会社
中越パルプ工業
特種東海製紙株式会社
日本紙パルプ商事株式会社
国際紙パルプ商事株式会社
SPP 新生紙パルプ商事株式会社
日本紙通商株式会社
株式会社竹尾
三菱王子紙販売株式会社
北越紙販売株式会社

〈順不同〉